

## 2010年文化祭を省みて

### 1. 「文化祭実行委員会」の設立。

- ・理事長より実行委員長、3副実行委員長が委託された。実行委員は会員から公募。  
実行委員会設立は5月15日（第1回文化祭実行委員会）
- ・22年文化祭組織図：別紙1参照

### 2. ‘キャッチフレーズ’と文化祭実施日

- ・SSNメーリングリストにより募集し、次のキャッチフレーズに決定。  
「素敵な出会い！輝く人生」
- ・このキャッチフレーズをモットーに文化祭実行委員会が中心になり企画提案することとし、平成22年9月29、30日に実施。

### 3. 「文化祭」の実施運営と部門別参加募集

- ・実行委員会にて実施運営を検討し、6月中旬以降、部門（ステージ、展示、出店）ごとにSSNメールで公募。
- ・出店はクラブが担当することを基本とし、クラブリーダー会議にて協力依頼。
- ・バザーについては昨年同様会員有志による運営。

### 4. ステージプログラム関係：別紙2参照

- ・昔懐かしい「うたごえ喫茶」「大道芸」「電気紙芝居」「フォークダンス」など。  
\*ステージ背景にプロジェクター投射はせず、出演者は‘眩しさ’から回避できた。
- ・電気紙芝居、絵本の読み語り、ムービー作品の上映は50インチ液晶テレビ使用。
- ・Jazzコンサート（オーディオクラブ）は体育館で実施した(会場を一箇所に統一)。

### 5. 展示関係（パネル30枚使用）

出展者区分	出展作品	出展者数（名）	点数
デジカメ倶楽部	写真	56	57
登山クラブ	写真	24	30
水彩画クラブ	水彩画	13	17
SSN会員個人	手工芸	2	3
	絵（PC、水彩、油絵）	4	11
	写真	2	9
	書、俳句、絵手紙、押絵	4	8
合計		105	135

\*反省点として会場設営用として展示パネル配置図を作成すべきであった。

### 6. 出店関係

- ・配置図：別紙3参照
- ・クラブの出店・演目：別紙4参照  
\*昨年と異なる出店は、「縁台将棋」、「駄菓子屋/音響パーツ・ジャンクショップ」。
- ・8つの出店があり、会の経費圧縮に貢献できた。

### 7. 広報関係(広報部が担当)

- ・事前PRに、昨年同様メディア関係（新聞社・テレビ局）ほかを訪問。  
概してメディアの反応は良くなかったが、唯一「北海道新聞社」が2日目に取材。
  - ・豊水町内会に配ったチラシが功を奏し、ケアーマンションのお年寄り（車椅子）が2日間来訪し、ステージ上の演目に感動していた。（20名）
  - ・文化祭のための来館者は会員外を含めて530名。
8. 運営関係（事務局が担当）
- ・会期中2日間の受付は、クラブおよび有志にて担当。
  - ・駐車場を星園高校グラウンドに10台分確保した。
    - ・ゴミ処理は出店者及び会員の持ち帰りが原則であるが、会員外の来館者もあるので、今年は‘サロン管理部’を通じ、NPO法人「エゾロック」の協力を得て大きなゴミ箱が用意された（ゴミ処理コラボレーションができた）。
  - ・ポスター制作は今年度もそうぞう画クラブが担当
  - ・ポスター・看板・チラシの印刷は新しいスタッフ構成(印刷班)で実施した。
    - \*文化祭以後もSSNのポスターチラシなどの印刷を請け負うこととなった。
    - \*プリンターは印刷速度の早いものが欲しい。
9. 交流会
- ・交流会実行委員会を設立し10月5日（火）18時より実施（105名参加）
  - ・会場を「ジャスマック」から「ノースシティホテル」に変更した。  
料理、会場の雰囲気も好評であった。
  - ・文化祭ダイジェスト版を上映した（25分）。そのほかゲーム実施。
10. 文化祭「反省検討会」
- 平成22年11月1日、10時～12時。 サロンにて第5回実行委員会を開催。  
実行委員会の最終回で、‘平成22年度文化祭’における良かった点や反省すべき点について3部門(ステージ、展示、出店)やその他部所との意見交換実施。  
来年度は今回の体育館が利用できないことが明確になっていることから、会場にかかる問題は話し合われなかったが、会場の選択は来年度からの課題である。  
文化祭実施にかかる諸問題とその解決策は今後の運営に参考になるものとする。

以上